

新春座談会

暮らしてみたいまちへ

「みんなで考えるUターン・Iターン」

地方都市が抱える人口減少問題。経済や産業をはじめ、地域コミュニティや地域活力に大きな影響を与えることが予測されています。一方、都会にはない働き方や生き方を実現しようと、故郷や魅力ある地域に移り住む「Uターン」の動きが注目されています。そこで今回は、本市に多様な人材を受け入れ、持続可能なまちづくりにつなげるための「Uターン」の取り組みについて語っていただきました。



齋藤 正幸氏

鶴岡ワークサポートルーム
鶴岡市無料職業紹介所
若者就職支援員



田中 麻衣子氏

ヤマガタ未来ラボ 代表
山形県総合政策審議会 委員
山辺町出身、東京都在住

一同 明けましておめでとう
ございます。

市長 少子高齢化による人口減少社会への対応は全国的な課題です。合併した平成十七年の本市の総人口は十四万二千三百八十四人でしたが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、十年目を迎える今年は約十三万人と見込まれています。この十年間で一年当たり約一千二百人ずつ人口が減少しています。また、若い人たちの動向では、高校卒業者の六割程度が就職や進学などで県外に転出し、二十五歳くらいまで転入者より転出者が多いという傾向が見られ、本市の将来を考える上で、

その推移を見守る必要があります。

「生まれ育った鶴岡に帰りたい」、「魅力ある鶴岡でいろいろなことをやってみたい」という思いを受け止め、鶴岡へのUターン・Iターンを今以上に促すことは、人口減少社会における本市の政策の大きな課題と考えています。

行政として地域としてUターン促進のために何が必要か、どのように取り組むべきか、きたんのないご意見を頂きたいと思います。

(Uターン…故郷から大都市等へ移住し、再び故郷へ移住すること Iターン…故郷とは別の都市に移住すること)





榎本 政規

鶴岡市長



丸山 裕喜氏

ヒューマン・メタボローム・
テクノロジーズ(株)
鶴岡市出身



宮城 良太氏

ハミングデザイン 代表
鈴木さくらんぼ園 営業部長
宮城県出身

【司会】阿部真一 地域振興課長

UIターンの支援 の現状

田中 UIターンを考えるきっかけは、就職・転職・結婚・妊娠・子育て・退職・病気などのライフイベントの発生と関係があります。私はずっと人材業界で働いていたのですが、そのときに山形に移り住みたいけれど、できない人が多いということを知りました。そこで、山形へのUIターンを支援したいと思い「ヤマガタ未来ラボ」を三年前に立ち上げました。UIターンを考えている人同士の交流会「ユアターンサミット」や山形で起業するための実践型研修会、キャリアアカウンセリングなどを行っています。受

入先の山形の人たちと一緒に、UIターン希望者のために汗をかくことが、自分にとって支援の鍵だと考えています。齋藤 「鶴岡ワークサポートルーム」は三年前に開設され、若年者無料職業紹介と内職相談を行っています。職業紹介では、市内在住の三十五歳以下の就職希望者へのあつせん、地元企業の求人開拓、UIターンの相談への対応があります。UIターンの相談件数は

全体の二割以下ですが、相談をした方の約七割は鶴岡に戻って就職しています。

市長 本市では若い人の地元への定着を進めるため「鶴岡市総合計画後期基本計画」(平成二十六年三月策定)の中で、雇用や移住・定住対策を重点方針に位置付けています。具体的には取り組みとして、UIターンのワンストップ窓口を本所地域振興課に設置しました。この窓口を中心に関係機関と連携を密にしながら相談機能を強化し、UIターン希望者を一体的にサポートしたいと考えています。また、「人生の岐路」、「ふるさとへの帰路」という意味の『KIRO』というパンフレットを発行し、UIターンをした方の声や支援制度、相談窓口などの情報を、UIターン希望者へ届けています。

住む家をどうするかというのも大きな問題です。市内の空き家や空き地等の一体的整備に取り組んでいるNPO法人つるおかランド・バンクと連携し、UIターン希望者へ空き家の情報提供や中古住宅の取得・リフォームに対して支援を行うなど住居環境の整備にも取り組んでいます。



鶴岡に移り住んでみて

司会 宮城さんと丸山さんは、Uターンで実際に鶴岡に移り住まれたわけですが、きっかけは何ですか。

宮城 東京で店舗設計の会社に勤め、妻と結婚しました。東日本震災で東北への移住を決め、平成二十四年春から妻の故郷である鶴岡で暮らしています。デザイン会社を経営する傍ら、妻の実家のさくらんぼ園の跡継ぎとして農業に携わっています。

丸山 医療用薬品の市場調査会社に勤めていました。東京で結婚し暮らしていましたが、家族からUターンを強く願われ、一昨年の冬に実家へ引越してきました。昨年春から市内のバイオベンチャー企業に勤めています。

司会 移り住む上で、どのよう働き暮らすかなど、不安や心配が多かったと思います。が、いかがですか。

宮城 デザインの仕事については社会人としての経験を積み技術も磨いてきたので、鶴岡でもやっていけるという自信がありました。ただ、農業は初めてでしたので、一年間、

新規就農研修を受けました。学ぶことは多いのですが、全て新鮮で楽しいです。

丸山 私も夫も職業が決まらないうまま戻ってきたため不安はありましたが、家族もいるので少しの間お世話になりながら、就職活動を頑張ろうと思いました。Uターンの前に東京で鶴岡の求人情報を探しましたが、地元と比べ圧倒的に少なく苦労しました。東京でも鶴岡と同じくらいの情報が得ることができたらよかったです。

齋藤 私が受けるUターンの相談の中で多いのは希望職種の間合せや、県外で働いている場合の就職活動の仕方、会社の辞め方です。また、東京と鶴岡の給与の違いに悩む方も多いようです。

丸山 Uターンをして実家で暮らしてみると、東京で暮らしていたときよりも支出が減り、その分、貯蓄にまわすことができています。生活費は家族と折半していますが、給与が減ったとしても、その分生活費もかかっています。Uターンを勧める上で非常に説得力がありますね。

宮城 自分たちはアパート暮

らします。家賃はそれなりにかかりますが、それでも東京で暮らしていたときと比べて、家計への負担は少ないです。
田中 Uターンをした方からそういう話をよく聞きます。
市長 都市と地方とは所得格差があるといわれていますが、生活水準でも格差があるのかといえ、決してそうではないでしょう。むしろ地方だからこそ実現できる豊かな暮らし方があると思います。そのためにも行政はしっかりと働く場を確保していかねばなりません。

働くこと意識

司会 地方に戻りたいと思っても、自分の希望する仕事を見付けられない人がいると思います。若い人たちの仕事や働くことへの意識について、どのように感じていますか。

田中 多くの若い人は社員など正規雇用で働くことを望んでいます。しかし、社員として働くことにこだわりを持たず、宮城さんのように自分の仕事で稼ぐ自信があれば、好きな場所で複数の仕事を組み合わせることもできます。
齋藤 就職相談に来る方は、



▲ユアターンサミットでの交流会



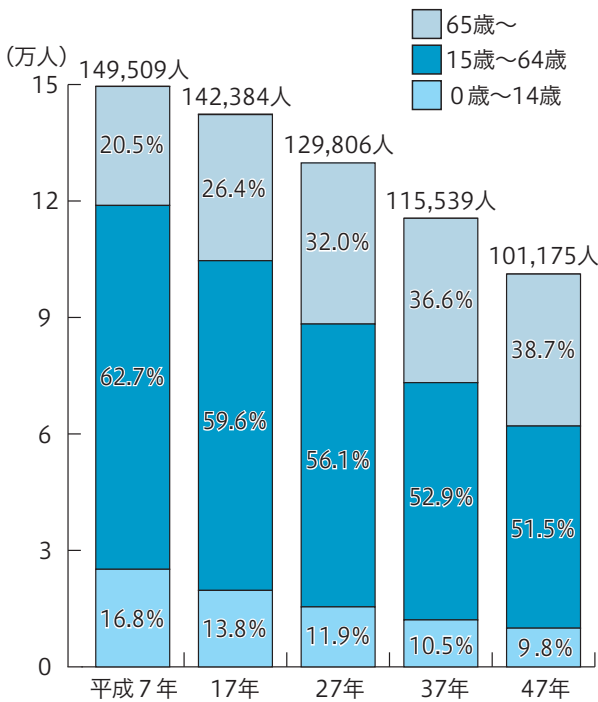
▲山形県で起業するためのワークショップ



▲鶴岡ワークサポートルームでの相談受付

■鶴岡市の年齢区分別人口の推移

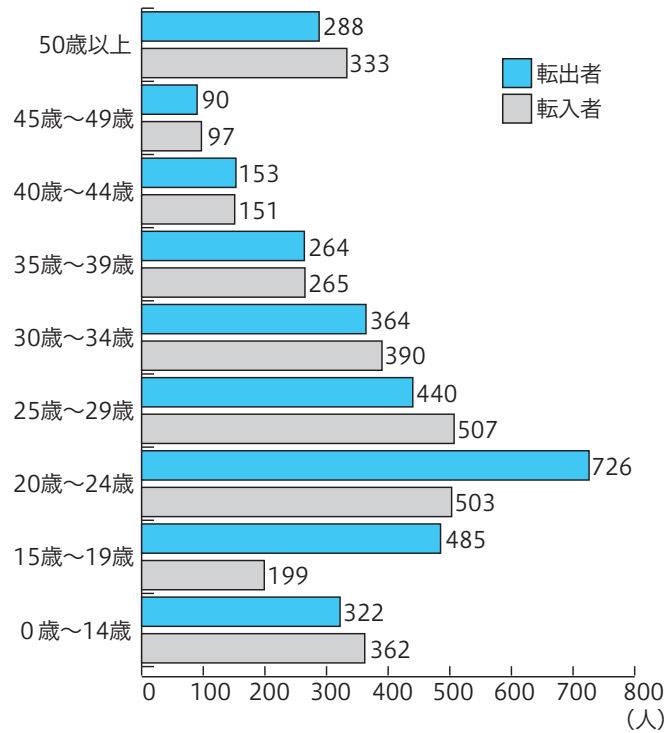
(資料) 国勢調査。平成27年以降は国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口。年齢区分別人口割合に年齢不詳者は除く



■鶴岡市の年齢別転出・転入者数

【平成23年10月～24年9月】

(資料) 鶴岡市住民基本台帳



既にUIターンを決めている場合がほとんどです。相談のときは「自分はこういうことができるので、こういう仕事がいい」という明確な根拠や意気込みを持って就職活動に臨むようアドバイスしています。漠然とした理由では、採用側に「自分の思い」が伝わりにくいからです。

丸山 私の場合、最初は事務の就職先を探しましたが、採用まで至らず苦労しました。東京での仕事が専門的だったからかもしれません。今の会社の仕事は経験したことがない職種です。バイオベンチャー企業なので当たり前ですが「ね。「何でもチャレンジしてみよう」という姿勢が大事だと感じました。

田中 都会で働いている人は一つの専門的な職種に携わっていることが多いようです。一方、地方の中小企業では、一人で五職種くらいの仕事をこなすこともあります。地方で働くときは、これまでの経験にこだわり過ぎないことも必要でしょう。

宮城 デザインの仕事も農業も、自分の手で良いものを作り出すという点で似ていると思います。今後、自分で果物

を作り、イメージをデザインし、販売までを一貫して手掛けたいと思いますし、今からとても楽しみです。

これからの時代の雇用基盤

市長 宮城さんのように本市の基幹産業である農業に魅力を感じてくれる人が一人でも多くいてほしいですし、実際、農業には可能性があることをPRしていきたいと思っています。

宮城 鶴岡へ引っ越すとき、「山形で農家になる」と友達に話したら、うらやましいと言ってくれました。農業は「格好悪い」、「もうからない」ではなく、「ものを育てる」、「工夫しておいしいものを作る」職業という考え方が広まっているのではないのでしょうか。ただ、何か農産物を作りたい場合、土地や資金が必要ですので、他の職業と比べ農業で暮らすことのハードルは高いと思います。就農のための支援制度などが充実すれば、働きたいと思う人がもつと増えるのではないのでしょうか。

市長 小・中学校や老人ホームには毎日のように食材が提供されていますので、それを全て地元でとれたものにする

など視点を変えれば、農業や漁業などの一次産業は大きな雇用の場になる可能性があります。

また、慶應義塾大学先端生命科学研究所で取り組んでいる生命科学分野の研究は、農業の発展につながる可能性があるものです。「一緒に研究して成果を上げてみたい」という若い人たちが活躍できる、新しい世代の雇用の場としても期待できます。農業や生命科学を柱としたバイオ関連産業などの知的産業の集積が、これからの鶴岡の雇用を支える基盤の一つとなるでしょう。

地域の魅力をUIターンにつなげる

司会 UIターンを促進するために、行政や地域にとっては、どのような取り組みが必要でしょうか。

宮城 鶴岡に何のゆかりのない人が移り住むためには、この魅力に触れやすい、例えば、農業や観光などの仕事について、短期間、鶴岡に住みながら手伝い、あわせて自分の趣味を楽しんだり、地元の人と交流をしたりするワーキングホリデーやファームステイ(農業体験民泊)のような

仕組みがあればよいと思いません。

田中 私たちも就業体験プログラムを行っています。県外に住んでいる人が鶴岡へのU-Iターンを実現するためには、その人の状況や気持ちに合った課題を解決し、住みたい気持ちにつながるような段階的な働き掛けが必要です。また、そのような取り組みを「面白そうだからやってみよう」という人に担ってもらえれば、その人のスモールビジネスになる可能性があると思います。

司会 地域資源や自分の得意なことなどを組み合わせたスモールビジネスを市が支援するなどして、多様な働き方や生き方が鶴岡で実現できるところを提案できれば、ここに住んでみたいと思う人も増えるかもしれません。U-Iターンの取り組みを希望者への確に伝えることが必要ということですね。

U-Iターン情報を的確に

田中 最近はスマートフォンで簡単な適性テストをするだけで、その人にふさわしい求人情報が自動的に提供される

など、新しい求職方法が普及し始めています。若い人たちの情報収集の仕方にも目を向け、対応を考えていかなければなりません。

丸山 U-Iターンを考えていても踏み出せない人のためにU-Iターンの手引を確立することが必要だと思います。U-Iターンを希望する人に、働くことや住むことについて適切な情報を、的確に伝えてもらいたいのです。

司会 本市へのU-Iターンを促進するため、情報の提供不足は克服しなければならぬ課題です。そのために、田中さんのヤマガタ未来ラボと連携し積極的なPRをするなど、情報の発信力を高めていかなければなりませんね。

田中 発信力に加え情報の編集力も必要です。行政ができることと民間ができることの、それぞれの強みを生かし、連携しながらU-Iターンに必要な情報を伝えていきたいと思っています。

正月等を機会に家族や友人に相談を

丸山 私がU-Iターンや今の会社で働くことを決めた背景には、やはり相談にのったり、

応援したりしてくれた家族の存在があります。

田中 私たちが行った首都圏在住者へのU-Iターン意向調査によると、東京等に住む地方出身者の七割がU-Iターンを考えたことがあり、そのうちの半数は、家族や地元の人に相談しています。もしそのような相談があったら、「帰ってきてても仕事を見付けるのは大変」と言う前に、まずは話を聞いてもらいたいと思います。家族が悩みを聞いてくれるのは大きな支えになります。

U-Iターンという人生の転機にはどうしても不安は付きものですが、「話ができる」、「相談できる」という雰囲気があるだけでも不安の解消に役立ちます。

宮城 移り住んでみて、自分の周りにU-Iターンをした人が多くいることに気がきました。気軽に相談ができますし、お互いに悩みを共有できているのでありがたいですね。

田中 地元を離れていてもインターネットを介して情報を得ることができずし、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のようなコミュニティ型のサイトで昔の友達とつながることができ

ますので、それを利用してみるのもよいかもしれません。

齋藤 U-Iターンをした方の話を聞くことはとても参考になりますし大事です。これから進学をする方は、何を学んで、卒業後の就職にどうつながるのか、その先のことをイメージしてもらいたいです。

田中 ご家族や友人と話し合うには、お正月はよい機会ではないでしょうか。

子育て環境の重要さ

丸山 U-Iターンを決めた大きな理由に「子供を東京ではなく鶴岡で育てたい」という思いがあります。家族や地域の支え、豊かな自然などに恵まれた環境が鶴岡の一番の魅力です。

宮城 私の理想は、家庭を築き子供を育て鶴岡にずっと住み続けていくことです。

齋藤 U-Iターンに限らず、子育て中の方から就職相談を受けることがあります。やはり、子育てと仕事の両立に苦労されているようです。

市長 「子育てするなら鶴岡」という形で、仕事と家庭が両立できるような子育て支援や母子健康・医療の充実など子



Uターンをお考えなら 気軽にご相談ください



Uターンのワンストップ窓口

…本所地域振興課
☎25 - 2111内線585

！働きたい

- ▼鶴岡ワークサポートルーム ☎25 - 2215
市内企業と35歳以下の方との就職の仲介を無料で行っていきます
- ▼鶴岡地区雇用対策協議会 ☎24 - 7711
Uターン希望者向けに、市内企業との仲介や情報提供を行っています

！起業したい

- ▼庄内産業振興センター ☎23 - 2200
独立・開業をお考えの方や起業間もない経営者のための起業家育成施設やワンストップ相談窓口等を設置しています
- ▼ナリワイづくり工房@鶴岡 ☎29 - 1287
好きなこと・得意なこと・役立つことで小さく起業する（＝ナリワイ）新しいビジネスモデルづくりを支援しています

！住みたい

- ▼NPO法人つるおかランド・バンク ☎64 - 1567
「空き家バンク事業」を通じて、市内の空き家・空き地の情報を発信し、購入希望者と所有者をつなぎます
- ▼鶴岡市移住推進空き家活用支援事業補助金 本所建築課☎内線406
「空き家バンク事業」を利用して空き家を取得、賃貸、改修工事を行う場合、その経費の一部を助成します
- ▼鶴岡市住宅リフォーム支援事業補助金 本所建築課☎内線484
市内業者に依頼して、自己居住用住宅のリフォーム工事または耐震改修等の工事を行う場合、その経費の一部を助成します



！WEB サイト

- ▼ヤマガタ未来ラボ
<http://mirilab.info/>
山形で「暮らす」「働く」「交流する」「応援する」など、自分らしく山形と関わるための様々な情報を発信しています



YAMAGATA MIRILAB.

供を生み育てやすい環境の整備を本市の政策の目玉にします。鶴岡へのUターンを考えてくれる、二十代後半から四十代前半くらいまでの方々が、人生の転機など何かのきっかけで、鶴岡に移り住んできたときに、住まいを含め、子育ても子供の教育もしっかりできる仕組みを作っていきたいと思えます。

暮らししてみたいまちの魅力

田中 若い人たちの声を聞く、生まれ育った所が好きという人がほとんどですが、好きだけで地域で働き暮らすイメージを持っていないという印象を受けることがあります。「地域の課題や可能性を自分事として捉える機会」や「その土地で頑張っている人とながる機会」を持つこと。それが、Uターンしたい・できると思えるようになるための第一歩だと思います。

宮城 移り住んでみて、例えば食に関する文化など鶴岡の魅力に改めて気付くことがあります。また、鶴岡で知り合った人たちとのつながりや、すてきな建物やお店がある町並みなど、とても自分に合っている、住んでとても心地よいです。

市長 子供たちには、自分の生まれた所に誇りや愛着を持てるように育ってもらいたいですね。本市は日本初のユネスコ「創造都市ネットワーク」食文化部門への加盟が認定され、豊かな食文化を継承し発展する食文化創造都市として世界的に認められました。出羽三山に育まれた精神文化や学びを重んじる人を育てる気風など、私たちが鶴岡の歴史・伝統・文化・地域について理解を深めることが大事です。しっかりと次の世代に引き継いでいきたいと思います。

また、高校を卒業する若い人たちが、自分の能力を高める教育のために鶴岡から離れることはあると思いますが、「鶴岡はいい所だよ」、「いつでも帰ってこれるよ」という受け皿を地域全体で作る上げていくことも目指します。

司会 Uターンについて様々な角度でお話しいただきました。課題を整理し解決の糸口を見付けていきたいと思えます。皆さんのお力添えをよろしく願います。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。